

令和5年度 前川光町長とふれあいミーティング 議事録

日時：令和5年5月23日（火）18:30～20:00

場所：大山崎ふるさとセンター3階ホール

出席者：前川光町長、馬場教育長、武田総務部長、蛭原健康福祉部長、藤波環境事業部長、浅田教育次長、事務局（坂口企画財政課長、企画観光係 上田・一宮）

参加者数：15名

次第：1. 令和5年度予算について

2. ご意見等について

【参加者からの意見と回答】

① 「小さな行政」について

（住民）

・西山天王山駅の効果で人口は増加しているが、若年層を増やしていくと考えるなら保育所について考えなければならない。「小さな行政」と言うが、現状の第2保育所を存続しながら、という状態は矛盾しているのではないか。

将来的には公立園すべてを民営化するべきであると考えているが、いかがか。

・学校給食費の無償化について、国も実施しようとしているが、町のように小さなところで独自に実施した場合、財源の確保を懸念しているが、どう考えているか。

（前川光町長）

・人口が増加する中、現状では保育所が足りなくなるのではないかとのことですが、現状の2割程度は増えても問題ない状態です。将来的には人口は減少していくので、むやみに保育所を増やす考えはありません。

・公立よりも民間の方がいいというご意見ですが、私にはその考えはありません。町が直接子育てをする状況を維持し、町が責任を持って育てていく方針です。

・給食費について、全国で無償化にしようというニュースもあるが、現在、人口に関しては市町村の競争の時代に入っていると私は考えており、今だからこそ町独自で給食の無償化を実施し、子育て世帯へ訴えていくことが重要であると考えています。

② 図書館について

（住民）

・複合化施設のワークショップで職員の方と一緒に案をつくってきたが、予算が否決されて残念。公民館や長寿苑、保健センターなどは目的のある人が行く場所だが、図書館は何も目的がなくても集える、まちづくりの中心になるものである。お金を投資することは無駄にはならない。

・大山崎町に引っ越してきたとき、図書室の小ささに驚いた。子どもたちは図書室で本

と関わる機会を得ている。また、町には子どもの居場所がない中で、図書室は貴重な教育の場所である。

(馬場教育長)

・学校に図書室はあるものの、放課後や休日は利用できない。子どもたちにとって、公民館の図書室は幅広い年齢層の方と交流できる場であり、様々なつながりが生まれる場であると考えています。

(前川光町長)

・図書室の広さは長岡京市の図書館の1階部分程度を予定しています。
・これまで多額の費用をかけて、複合化施設の設計と現施設の解体について準備を進めてきましたが、予算が否決されたために何もできない状態ですので、何とか議会に理解を求め、進めていきたい。

③ 図書館について

(住民)

・島本町の図書館は素敵だと思う。楽しみにしているので、大山崎町の図書館も早く進めてほしい。

(前川光町長)

・議会に理解を求め、できる限り進めていきたい。

④ 今年度予算について

(住民)

・中学校給食が始まってよかった。
・天王山ハイキングコースは予算がついているが、補修が必要と感じている。
・子どもの通学路について、第二大山崎小学校区には立派な歩道が付いていたりするが、大山崎小学校区の西国街道は危ない。大型バスなども通るが、細い歩道が片側についているのみ。府道、町道の整備を進めてほしい。

(前川光町長)

・中学校給食は4月から実施することができた。今後は給食でのまちづくりを考えていきたい。地域の方に給食を食べてもらう試食会なども開催したいと考えています。
・天王山ハイキングコースの整備については、大人もすべる箇所があるのでそのような場所を無くすよう整備したい。子どもも気軽に登ってもらえる、自然教育を施せる天王山にしていきたい。
・町道、府道について道路の危険箇所は認識している。京都府にも要望活動を行っていますが、今後も強く要望していきたい。

⑤ 複合化施設について

(住民)

- ・複合化施設について、町長は議員との調整がうまくいかず進まないというが、ある程度は議会との話をまとめてから町民に下ろしてほしかった。
- ・町に現状の公民館のような粗末な施設があるのは悲しい。他市は施設も充実しているし、まちづくりに若い人が参加している。大山崎町の施設には惹きつけられるものがない。議員としっかり話し合いを持っていただいて、未来に向けて尽力いただきたい。

(前川光町長)

- ・複合化施設の過去の経緯を言いますと、前町政では複合化施設の案が否決され、公民館のみ建て替える案で進めていて、現町政となり、それを踏襲して公民館だけ建て替える予算を提案したら否決されましたので、現在は複合化施設で進めているという経過があります。

予算が否決されたことは私の不徳の致すところでもありますので、議会の意見も聞いて進めていきたいと考えています。

⑥ 障がい者支援、中学校の教育環境などについて

(住民)

- ・町内の地区によって格差が大きい。例えば円明寺地区では公園で子どもの声が響いているが、大山崎地区では子どもの声が聞こえるとうるさいと言われる。
- ・小学校の障がい者支援が進んでいると聞いたため、引っ越してきた。実際、障がいのある子どもを通わせ、素晴らしい支援を受けたが、それが中学校に引き継がれていない。
- ・町独自の施策がほとんどない。行政サービスが受けられない。住民を増やそうとする動きの割に支援が足りていないところが多々ある。例えば、長寿苑のうぐいす号は車いすの人が一人で乗れる設計になっていない、など。
- ・ヤングケアラーについても、支援が不足している。

(馬場教育長)

- ・教育委員会が直接お話を聞く。また意見を聞かせてください。
- ・住みよいまちにするためには解決すべき問題がある。できることから取り組んでいきたい。

(住民)

- ・不登校の子が通う適応指導教室が結局学校のミニチュア版で、何のための適応指導教室かわからない。利用者目線で、柔軟に対応してほしい。
- ・教育は学校へ行くことが前提となっているわりには、教育環境が整っていないと感じる。

(町職員)

- ・学校へ行くことだけがゴールではないと考えていますし、改善すべきところは改善し

ていきたいと考えています。

(住民)

・今の話を聞いて、大山崎町は福祉のまちだと思っていたのに、そんなにさみしいまちなのか。子どもは宝物。住民に耳を傾ける体制づくりをしていただきたい。

(馬場教育長)

・町も、町教育委員会もよりよい教育施策を進めていきたいと思っています。